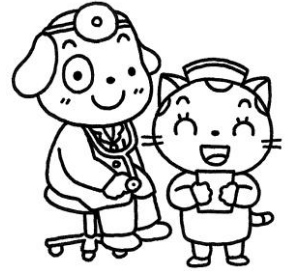


冬真っ盛りの今日このごろ。この冬はインフルエンザの流行が例年より早く、身近な人が罹ったというかたも多いのではないのでしょうか。

もうしばらくは、うがい、手洗いを励行して体調管理に気をつけましょう。



今回は「赤ちゃんと子どもの応急手当－誤飲」についてのお話です。

誤飲は子どもに多い事故です。最近ではパック型洗剤の小児の誤飲事故の報告もされています。誤飲は気がついた時点で舌の奥を下のほうに押し下げてすぐに吐かせるのが原則ですが、なかには吐かせてはいけないものもあるので、何を飲み込んだか確認してから対処しましょう。

※こんなときは吐かせずに大至急受診しましょう。

- |                                       |            |
|---------------------------------------|------------|
| ①意識障害がある                              | ④ボタン型電池の誤飲 |
| ②けいれんを起こしている                          | ⑤血を吐いた     |
| ③灯油、ガソリン、除光液など<br>揮発性の液体や強酸、強アルカリ性の誤飲 | ⑥とがったものの誤飲 |

上記以外で様子が落ち着いていれば、まずは中毒110番やかかりつけ医、病院の救急外来に問い合わせ、指示を仰ぐようにしてもいいでしょう。

### 中毒110番（日本中毒情報センター）

つくば中毒110番（無料）365日 9～21時対応 ☎029-852-9999

大阪中毒110番（無料）365日 24時間対応 ☎072-727-2499

＊通話料は相談者の負担

誤飲物の毒性や家庭での処置についてはホームページでも検索できます。

ホームページ (<http://www.j-poison-ic.or.jp>)

子どもの事故は突然起こります。まずは落ち着いて行動を。

（「もしものときに役立つ赤ちゃんと子どもの応急手当」元国立保健医療科学院生涯保健部部長 田中哲郎著より）